862
48

橘平消息

国立国会図書館　タイトル『橘平消息』 請求記号 862-48

ガラス使用

橘平消息

862-48

国立国会図書館　タイトル『橘平消息』　請求記号 862-48

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『橘平消息』　請求記号 862-48

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『橘平消息』　請求記号 862-48

ガラス使用

あへ見やりまけまさえまさわ侍るをよくしの
き給ひてようちつけあるなれ見けてこそさつ給
かこつりこゆるしあへあふりしと

志ん行番　橘ノ千蔭

本居の君にまゐる

まつりとよあひらふ物し給ひて見てこつき
法よりひきこ○あ給へてんまのたしめのこ呂と云
あれハ子世にとしたいとふきまうひこうふもあ
あくてあんたまれのハふるとへさを給へ留
法書よまこきまはれや言かへり来ぬると

思ひへりぬ當のたりなりにめつらしく
うれしくあんうを給いかぬるいてや縣居の友
とてハ一とをかとりの奥産をのとふてれしを
村田春海ぬしとてハ一つひのあいめもし侍
つれこれらをたあらてハあしさるふのこゆわ
あ皇侍る中ふ天の法ゐりしも弟よぬしの
こゆのなるさそとなんせよ云くなるをとて
まてハ其事とあくてゆるえさるわさも侍
さ皇きさゆハそやくれ父君の法許ままゐり
毎ひし藤田某といふものしけるを見しれあり
法まもうけ給ひ皇文をきま安田ぬしの抱治

国立国会図書館　タイトル『橘平消息』　請求記号 862-48

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『橘平消息』　請求記号 862-48

ガラス使用

胡敬齋

国立国会図書館　タイトル『橘平消息』　請求記号 862-48

ガラス使用

朝敵辨

清水濱臣辨

或問云近来契沖真渕ノ輩萬葉風ノ古体ノ哥ヲ我モ好ミ人ニモ教ヘシヨリ古風ノ歌学海内ニ流行スル様ニナリニタルヲ堂上家ノ歌風ヲ學ヒ来リシ輩是ヲ悪ミ朝敵也ナト云モノモアルヨシ兼リ及ヒ候コレハイカヽ心得テヨロシカルヘク候ヤ

答云此不審尤ニ候今委シク辨シ申スヘシ先何カサシオキテ古學者ヲ朝敵也トイフハ甚シキ心得タカヒ也其ヨシイカニトナレハマツ譬ヲ取テイハンニタトヘハ漢學ノ道モ昔ヨリ朝庭ニテハ菅家江家三家明(ミヤウ)經文章(キヤウモンシヨウ)ノ家ニテ今ニ其学ヲ傳ヘ来ヌレト盡ク古詮ヲノミ用ヒテ新

註ヲ用フル事ナシ然ルヲ将軍家ニテ林道春ヲ御擧用有シヨリ藤惺
窩林道春ノ学風行ハレテ皆新註ヲ用フル事ニナリ後ニハ性理ノ學ニ
キリニハヤリテ甚シキハ四書五経小學近思録ノ外ハヨムヘカラスナトイフ
先生タチモ出来ル様ニナレリ此學風ハ朝庭ノ學風ト大キニ相違セレハ
コレヲコソ學問ノウヘニテハ朝敵トモイフヘキヲスヘテ學問ノ道ハ和漢ト
モニサヤウナルカタリナナルモノニハアラス イトモ公平ナルモノニシテ人ニノ
心〻ニヨルモノナレハ古註ニモアレ新註ニモアレヨク心ニ考得テヨロシキ方ト
思フニシタカフヘキ事ナリサレハ将軍家ニテ新註御モチヒナレ𪜈朝庭ヨリ
新註用フヘカラストノ御咎メモナシ又此貳百年来伊藤仁齋荻
生徂来ハ二傑有テ復古ノ學ヲ唱ヘ海内コレカ為ニ一新シテ新註ヲ

捨テ古註ヲ用フル輩多クナリコレヨリ學問ノ道日々ニ開ケテ仁齋
徂来ノ謬ヲ糾ス人モ又彼是ト多ク出来リ今ニナリテ必新註ニノミヨリ
テ古註ハ見ルヘカラス又古註ヲノミ取シ新註ヲハ目ニモ觸ルナトイフヤウナル
頑シキ學者モマレニナリ行シハ實ニ昇平文明ノ化ニテ學問ノ道ノ盛
ニ開ケシカ故也」又筆道ノカタニテタトヘイハ今公邊ニテ御モチヒノ和
様御家流ナトハ士農工商ノウヘニ有用ノ事ニテイトメテタキフナルヘケ
レ𪜈同シ和様ト云ウチニモ古代ノ三跡ハ云ニ及ス道風行成佐理ナト尊圓
親王アタリマテイヘレモ筆法正シクウルハシサモスクレテ見ユルヲ世ニ書クツシ
来リテイタク書体ヲ失シ卑俗ニモナリニタリ然ルヲ寛保享保ノ頃細井廣
澤有テ道栄雪山ノ筆意ヲウケ明人文徴明ヲ慕ヒテ世ニイフ唐様ト

国立国会図書館　タイトル『橘平消息』　請求記号 862-48
ガラス使用

イフリヲハヤラセ門人ニモ関思恭三井親和平林淳信カタクヒ人出来テ
一時世ニ用ヒラレシヨリ近来伊勢ノ韓天壽江門ノ澤田東江又アラタニ
古法帖ノ筆学ヲトナヘ出テ今モ心アル人々ハ皆古法帖ニヨリテオノレ〳〵
カ好ニ慕フ所ニ古人ヲ師トシテ其風ノ学フユトハナリニタリサレ𪜈公儀ヲ
リ御家流ノ外ナル古法帖ノ筆学ヲスル者ヲ朝敵也ト御咎メモナシ歌
道モ亦然リ中古以来古言ノ学タエテ古歌ノ意ヲ知ル人ナクタマ〳〵歌ヲ
ム人ハアリシカ𪜈師傳ノ説ヲノミモモリテサシク難義ナル日アレハ或口訣ナ
リ或ハ神秘ナリナト云テ古書ニ正サントノ心モナクテ数百年ヲ送リ来リ
シヲ元禄ノ始メ難波ニ下河邊長流圓珠菴契沖ノ二人出テ萬葉集ヲ
ヨミトキ千歳ノ疑門ヲ開キシヨリ荷田東麿賀茂真渕打續キテ大キニ

復古ノ学ヲ唱ヘ近クハ真渕ノ門人伊勢人本居宣長カ如キ出藍ノ譽高ク
今ハ古言ノ学朝日ノサシ登ル如ク明ラカニ成ニタレ𪜈猶オホツカナキヿ多ク
シテ契沖真渕宣長ノ説ニモ舊説ノ謬テ糾サントテ云過シタルヿモマレ〳〵
ハナキニアラス強テ学葉ノ大成ノ思ヒヲ牽強ノ説モアリコレハ和漢トモニ学
者ノウヘニハ常ノヿニシテナカナナカラ全キヿハ無キヿモサレハ其ヨキヲ取アシキ
ヲ捨テコソ学問ハ為ヘキヿナルヲ吾佛尊シトカ云諺ノ如クオロカナル人心ヨリ
シテハオノレノ師ヿトタノミ又尊信スル人ノ云置シ言トタニイヘハ十カ十百カ百ナカ
ラ皆アヤマリハナキヿトノミ思ヘリカヽル輩ナトカ契沖真渕宣長等カ説ノ
ウチニテマサシク考足スシテ誤リ心得タルヿモアルヲシヒテ其誤ヲオホヒ隠サ
シトテカヘリテ外人ニウシラルヽヿアリ縱(タトヘ)今ノイカナル鴟儒碩学ニテモ百カ

国立国会図書館　タイトル『橘平消息』　請求記号 862-48
ガラス使用

百誤ナキヿノアラニヤ ハコハ後學ノ取捨ニ心アルヘキヿ之スヘテ學問ノ道ニ
カヽル大平ノ御世ニ逢テ人ニ其スチ〳〵ニ心ヲヨセ志ヲ勵マスカラハイカニモ
考索ノ行ト〻クヽケハ古今ノ差別ナク善ニヨリ悪ヲ捨ヘキヿ是ヲコソ公平
ノ學術トハイフヘケレ然ルヲ歌ノミ古人ヲ師トシ古歌ヲ手本トシ證アルヲ
用ヒ無稽ノ説ヲ退ルヲ無用ノ事也トイヒ朝敵也トイフ事ノ有ヘキヤ
ヨシソレトテモ朝庭ヨリ將軍家ヘ御達シアリテ歌ハカヤウニコソヨムヘケ
レサヤウニハヨムマシキモノ也トイフ御觸ノアラハコソ歌ハ人ノ心ヲ夕子トシテ萬
ノコトノハヲイヒ出ルモノナリイカテサル御法度ノアルヘキヤウアラス
又問云然ラハ當時堂上方ニテモ古言ノ學ヲ用ラレ候事モ有リニ候哉
関東ニテモ万葉風ヲ好ミ玉フリ候ヤ兼タク候

答云當時心アル堂上タチハオモテニ古學ヲ唱ヘサルモ心ノ中ニハ深ク信シテ
古書ヲ好ミヨマル輩多シ是ハ近来妙法院宮（今上皇帝御兄宮）深ク古學ヲ好ミ玉
ヒ御詠出ノ歌モ皆古假字ヲ用ヒ玉ヒ京都ニテハ蘆菴蒿溪季鷹カタ
クヒヲ召寄テ歌マナヒサセ玉ヒ関東ニテハ千蔭春海自寛ナトカ歌ヲ召
上セテ深ク賞シ慕ヒ玉ヘリ過シ享和年中大佛丹建ノ御願ニツキテ御
下向有シヨリモ御旅宿（天德寺）ニシテ千蔭春海ヲ召テ古學ノ事トモ
問ハセ玉ヘリ（此時御問答御淡話等ヲ後ニ春海委シ筆記シテ仙語記ト名ツケテ一冊トナシオケリ）カク至尊ノ御身ニ好セセ玉フヨリ
公卿ニモ冨小路殿（貞直卿）ナトハヒタスラノ古學者ニオハスナリ千蔭ヲ慕ヒ
玉ヒテ萬葉畧解ヲマヰラセシヨリノ其返翰ニ自筆ニテ仰セオコサレシハ
未接芝員傾蓉無已鴟使附寄候秋冷之節起居清勝候哉

令兼知度候柳萬葉集畧解之大作渇望之趣季鷹中進
有之候哉不料預恵投領頃感悦之至ニ候管雪ニ窓日ニ解
年来ニ疑滞欣幸不過之速可申謝候処海紅花不能其
義遅久ニ罪可令高恕給此一幅聊賀與珠玉競光ニ徳宗候
趣意ニ而伴函ハ如於笑留者可為素懷候尚書餘可在後
信草ニ馳禿筆候也

八月十三日　　貞直

千蔭翁　唫案ヲ

追ニ不審ニ度如丘山候ヲ追ニ可及質問ニ隔心垂示ニ義
示度如何恩賞魯迺半瓦目南記等ハ宮ヲ雅定
民俗年無尤四能ニ川吉
萬ニ為ニ自玉雪ニ候也

又享和元年五月本居宣長上京セシニ妙法院宮ヨリモ哥トモ多ク乞
ハセ玉ヒ中山大納言殿忠尹卿ノ許ニ召レテハ延喜式巻八祝詞式ヲ講セシニ其
ヲリノ聽衆

中山大納言忠尹卿　　三條大納言公修（ヲサ）卿
園大納言基理卿　　花山院右大將愛徳卿
大炊御門中納言経久卿　　河鰭宰相實祐卿
中山宰相中將忠頼卿　　今城右中將定成朝臣

野宮左將宴参朝臣

野宮侍從宣静朝臣

東園侍從基仲朝臣

花園美作權介燕生

右ノカタ〳〵公卿ハイツレモ烏帽子狩衣殿上人ハ上下着ナリ右ノ外地下聽衆家〻ノ諸大夫侍等ナラヒニ宣長カ門人共皆ニ次ノ間ニ列座シテ聽聞セリ宣長上京ノ中翌ノ旅宅ニシテ昼ハ毎日源氏物語夜ハ毎夜萬葉集ヲヨミケルニ其講釋ヲ富小路新三位殿貞直卿錦小路三位殿頼理卿日野中宮權大進資愛卿ノ従一位資枝卿孫伴ノ方〻一夜モカヽサスオハシ其外ニモ外山三位殿光實卿倉橋中務權少輔殿泰行朝臣ナトマレ〳〵問玉フヨリアリ又別ニ綾小路中納言殿俊資卿富小路新三位殿錦小路三位殿日野中宮權大進殿此方ノ好ミヨリテ大祓詞ナラヒニ出雲國造神賀詞ヲ宣長講談セリ宣長伊勢ヘ歸ルヨリ富小路殿長歌ヲ作テオクラレ余ハ公卿タチモ皆歌ヲヨミテオクラレケリ（此時ノ事ハ舍記トイフモノニ委シ）又眞淵門人伊勢外宮社人荒木田久老神主ノ著ル萬葉集枕詞落葉ニ芝山中納言殿持豊卿序文ヲカヽセラレテ来ル今ヨリハシクレ降ニシ奈良ノ葉ノ陰フム人ノ道ハマトヽシトシルサレタリ紫紅近来古學ノ書ニ堂上方ノ序多シカレハ古学者モ朝敵ナラヒニハイカテカルヘトモアラヒヨクヽヨキマヽヘニサテ又関東ニテ御用ヒナサレシハシメハ水戸黄門君光國卿ヨロツノ学問ニタケ玉フアマリ圓珠菴契沖カ萬葉集ニ委キヨシ記テ御家臣安藤為章ヲ御使ニテ一度ハ下向シテソノアタリ萬葉集ノ難義ヲトキカスヘキヨシ仰遣サルヽ契沖年老テ遠方ノ労ニタヘスシカノミナラス名利ノ望ナキ大徳ナル故ニ仰トハカリニコケレヽ下向

国立国会図書館　タイトル『橘平消息』　請求記号 862-48

ガラス使用

ノヿニ思ヒ絶タル由イナミ奉リシカハ為章空シク帰テ此由復命セシ
ニ再ヒ為章ヲ御使ニテ然ラハ萬葉ノ註釋ヲ筆記シテマヰラスヘシト
仰遣サレシカハ契沖数年来考置タル説トモヲ筆記シテ代匠記一十
巻ヲ奉リシカハ君甚ヨロコハセ玉ヒテ御感服ノアマリ是ヨリ為章ヲ
契沖ノ門人ト十サセ玉ヒテ萬ツ古学ノ道ヲトヒキカセサセ玉ヘリ
又田安黄門君宗武卿ニモ古學ヲ好マセ玉ヒテ京都稲荷山ノ社人荷田
東麿ヲ召下シテ古學ノ事トモ問玉フニ東麿申上ケルハ某ハ年老オ拙
ク候フ某カ門人ニ賀茂真淵ト申候者學術ハルカニ某ヨリハマサリ申候又
愚息ニ候在満ハ律令ノ學ニ心ヲ深メ申候彼等ハ御用ニモタチ可申候ト
申セシカハ東麻呂ハ御暇ヲ賜ハリテ上京ニ真淵在満両人ヲ召レテ御

家人ト為玉ヒテヒタスラニ復古ノ學ニ御心ヲユタ子両人ヲモ厚ク用ヒ玉ヒ
シニ在満ハ国歌ハ論トス歌論ノ書ヲ筆記シテ見セ奉シニ君ノ御論ト
相違ノヿ有シカハ君自ラ国歌ハ論餘言ト云モノヲ筆記シ玉ヒ在満ヲ
シテ御論ニ従ハシメント為玉ヒシニ在満申スヤウ今君ノ恩澤ヲ蒙テ身
命ヲ養フカラハイカナルヿニテモ御仰ニソムクマシキヿニ候ヘ匹夫ヲモ志ヲ
ハ奪フヘカラストコソ聖賢モノタマヒタレ學問ノ道ニハイカニモ我志ヲマケテ人
ニ従フヿアルヘシトモ存シ候ハスト申テ遂ニ病ト称シ仕ヲ辞シテ處士トナリ
居タリシニカタシケナクモ時ノ将軍家有徳院殿在満カ皇朝ノ吏法ノ學ニ
長シタルヿヲ聞シ召テ小堀土佐守ヲ以テ廷喜式等其外皇朝古典ニ
才イテ不審ノ事トモ問セサセ玉ヒシニ委シク答ヘ奉タリシカ大キニ御感心

国立国会図書館　タイトル『橘平消息』　請求記号 862-48
ガラス使用

アリキ然ルニ元文三年京都ニ大嘗會アリシカハ御内命ヲ蒙テ上京シ
委シク其大礼式ヲ記得シテ帰リスナハチ大嘗會具釋九巻ヲ撰シテ
オホヤケニ奉リ翼年其具釋ノ趣意ヲ略記シテ大嘗會使蒙ト名ツケテ
上木シタリキ真淵ハ田安君ノ御心ニ叶ヒテ御用ヒ厚ク君モ歌體約言ト
イフ書ヲアラハシ玉ヒテ萬葉ノ古風ヲヒタスラニ尊信シタマヒ後世ノ歌ヨミ等
ノ誤リ心得タルヿトモヲタヽシノタマヘリ平生御詠出ノ御歌イト古体ナリ御集佐保川トナツケテ二冊アリ又殊ニ饗東染色イニ委シクオハシマシテ御目ラノ御者述イト多シ
マノアタリニハ當時ノ紀伊黄門君ハ本居宣長カ學ヲ深ク御尊信有テ和歌
山ヘ宣長ヲタヒ〳〵御召有テ古事記書記萬葉其外ノ古書ヲ講談サセテキ
コシメシ月俸ヲ賜ハレリ宣長波シテ後其子春庭モ古言學ニ委ケレモ亡月
人ニテアレハ宣長カ門人稲懸大平トイヘルヲ仰言有テ宣長カ養子トナサシメ

本居三四衛門大平ト改サセテ伊勢松坂ヨリ紀伊和歌山ヘ引移ラセテ御家
人トナサセラレタリサレハ今ハカクノ如ク京都ニモ関東ニモ年ヲ追ヒ月ニシタ
カヒテ御取用ヒアル古言學ナルヲ朝敵也トイフハ甚シキヒカ心得トイフ
ヘシ

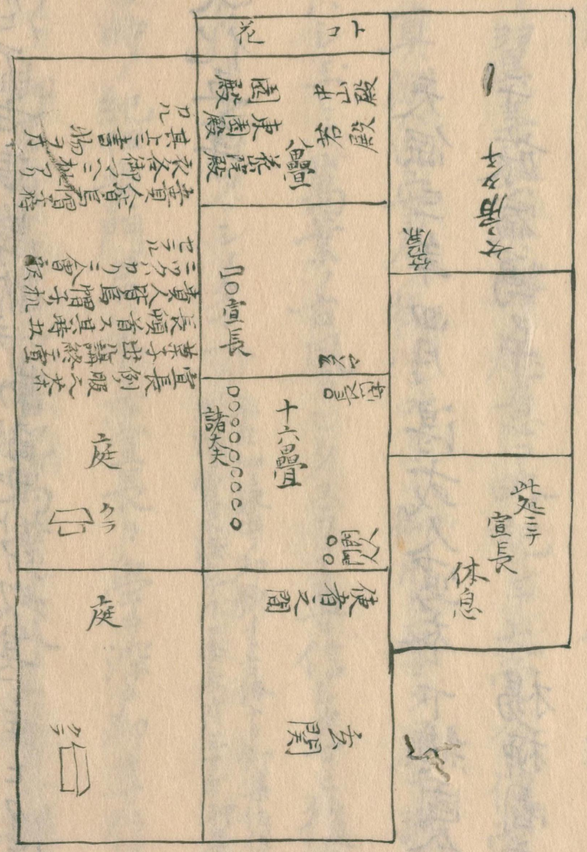
文化五年

天保三年四月得或人寫本下總國金岡作
于旅宿寫早

楊柳園主人

国立国会図書館　タイトル『橘平消息』　請求記号 862-48
ガラス使用

於中山殿宣長講筵之圖



国立国会図書館　タイトル『橘平消息』　請求記号 862-48
ガラス使用

14298

辨に於ていはしてよりしきをあまりに無益の長談
いとゝるさし神代より言語正しくれハ音声も定
りありて假名のたゞふべきいはれなりしを次々に
誤り来りて定家卿為家卿なと私をたてゝ上古の
傳来を押ゑ給ひしより其家の流義ハ出来
しこの両卿なとをこそ朝敵ともいはゝいはめ
古学の人々ハ神代上古の御掟に志ゝかゝる故に
官軍無二の忠臣也

濱臣ハ春海ゟ門人にて師の悪僻を受継て妬の
意より宣長大人を怨敵の如く口をきハめて
あしさまにのゝしりなりしかゝる時に及ひ
て方人に引いれつよくを見ゆるハちらくらく
きゝなるしいゝて春海を楯とハせさる但し
已ゝ師なりしも内心にハ物の用にたゝしと思ひ
てさいしつゝるなりしん
又云春海ゟ書つゝる物に上古を破り古書をあらぬ
さまにいひなしいすゝにしたゝかゝる大人を狐の
類なると悪言しつゝる罪いかはかりなりしん春海
ハ官軍の内に在なりし裏切二心の不忠人也

儒学筆法なとの小道をたとへに引出ていふる
雨夜の品定めめきていと拙し天下不双の大神道
今儒佛のいやしき道を交へるハ殊にいふしき
朝敵なるをさいはしてかゝる小事をいひ
出る外にいかほともあるべし

国立国会図書館　タイトル『橘平消息』 請求記号 862-48
ガラス使用

14298

国立国会図書館　タイトル『橘平消息』　請求記号 862-48

ガラス使用

·14298

国立国会図書館　タイトル『橘平消息』　請求記号 862-48

ガラス使用

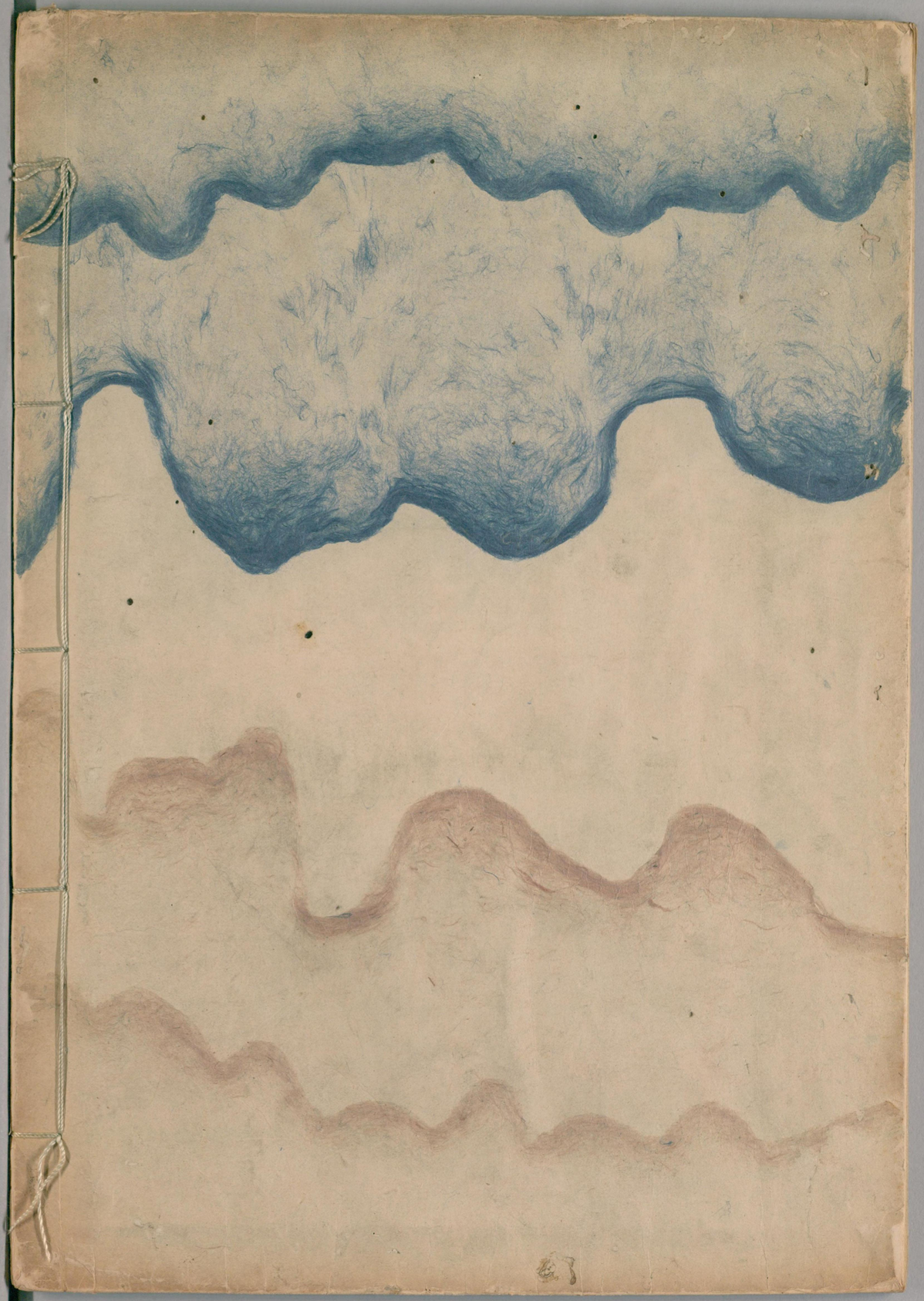
862
48

国立国会図書館　タイトル『橘平消息』 請求記号 862-48

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『橘平消息』 請求記号 862-48

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『橘平消息』 請求記号 862-48

ガラス使用